

IoT 共通プラットフォーム実証環境 サービス利用ガイド

2019年5月

高松市

改版履歴

版数	日付	改版内容
1.0	2019年5月28日	初版

目次

1	本文書について	4
1.1	本文書の目的	4
1.2	関連ガイド	4
2	初期設定	5
2.1	アプリケーションからの API 利用準備	6
2.1.1	アプリケーションの登録	6
2.1.2	アプリケーションの API 設定 (Subscribe)	9
2.1.3	アプリケーションアクセス用キー／秘密鍵の生成	13
2.1.4	アプリケーションの補助タイプ変更	20
2.1.5	アプリケーションの削除	22
2.2	ユーザー情報の編集	24
2.2.1	サインイン	24
2.2.2	プロフィール変更	27
2.2.3	パスワード変更	28
2.2.4	サインアウト	29

1 本文書について

本文書は、秘密保持対象ドキュメントとして、サービス事業者の許可なくコピー及びその配布、ホームページへの掲載を禁じます。

1.1 本文書の目的

サービス利用ガイド（以下本ガイド）は、「IoT 共通プラットフォーム実証環境」（以下本サービス）を利用するための方法について記載した文書です。

1.2 関連ガイド

本ガイドの関連ガイドを以下に示します。

表 1-1 関連ガイド

ガイド名	版数
IoT 共通プラットフォーム実証環境 スタートアップガイド	1.0 版
IoT 共通プラットフォーム実証環境 アプリケーション開発ガイド	1.0 版

2 初期設定

本章では、本サービスの利用者が、WSO2 Identity Server 及び WSO2 API Manager の管理コンソールを利用し、アプリケーションから API を利用するための準備及び、ユーザー情報の編集作業について記載しています。

本章では設定対象を下記アイコンで表現します。

 : WSO2 Identity Server に対する設定


 : WSO2 API Manager に対する設定

表 2-1 用語定義

用語	概要
IS	WSO2 Identity Server
AM	WSO2 API Manager

2.1 アプリケーションからの API 利用準備

WSO2 では、認証・認可したユーザーのみを API アクセス可能にするために AM 上でアプリケーションを用意する必要があります。

本章では、AM 上で用意するアプリケーション（以下、アプリケーション）での API 利用準備手順について記載します。

2.1.1 アプリケーションの登録

アプリケーションの登録方法を以下に記載します。

【手順】

1. ブラウザから、下記 URL にアクセスします。

AM

[https://\[ドメイン名\]/wso2am/store/](https://[ドメイン名]/wso2am/store/)

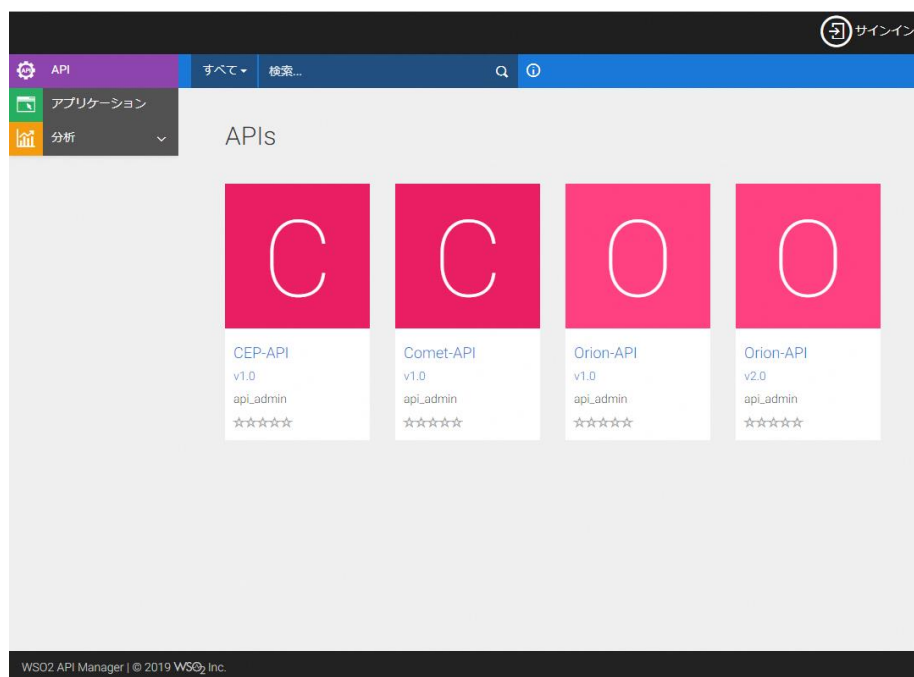


図 2-1 API Store アクセス時

2. 画面右上の[サインイン]をクリックし、アプリケーションを管理するユーザーでサインインします。

AM



図 2-2 サインイン

3. メニューから「アプリケーション」を選択します。

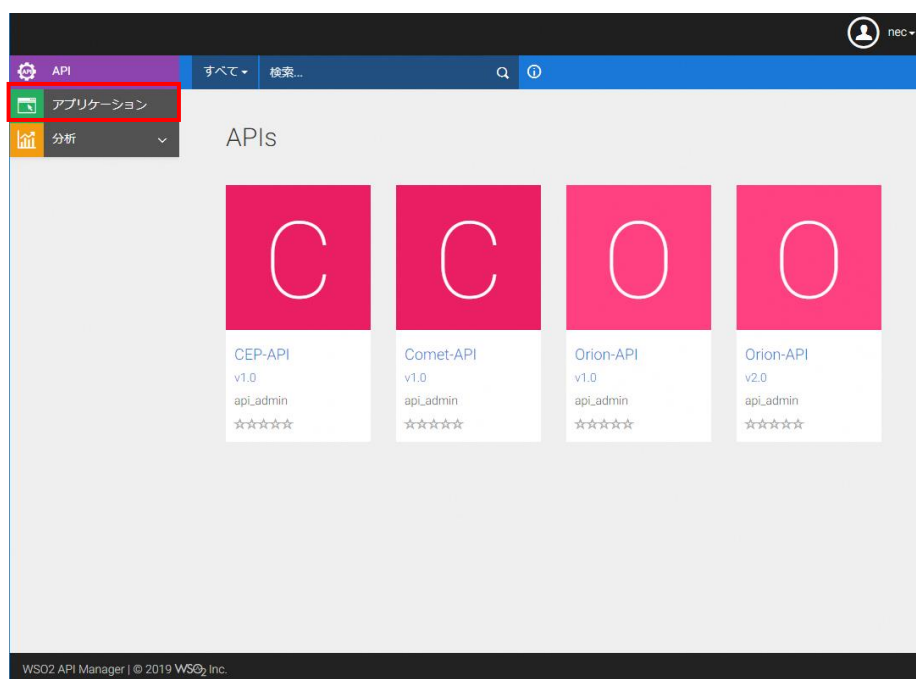


図 2-3 [アプリケーション]の選択

4. 「アプリケーションの追加」をクリックします。



図 2-4 [アプリケーションの追加]のクリック

- 「名前」に追加するアプリケーション名（任意の英字）を入力、「トークン制御」にトークンごとに許容するリクエスト数（デフォルトは Unlimited : 無制限）を設定して、「追加」を選択します。



図 2-5 アプリケーションの登録

- 登録アプリケーションが表示されます。



図 2-6 アプリケーションの登録確認

2.1.2 アプリケーションの API 設定 (Subscribe)

登録したアプリケーションに対して、アプリケーションが実行できる API を設定 (Subscribe) します。Subscribe できる API の一覧を以下に示します。

表 2-2 API 一覧

表示名	バージョン	説明
Orion-API	v1.0	「データ収集/蓄積レイヤ」の Orion (NGSIv1) を利用するための API
Orion-API	v2.0	「データ収集/蓄積レイヤ」の Orion (NGSIv2) を利用するための API
Comet-API	v1.0	「データ分析/参照レイヤ」の STH-Comet を利用するための API

※ Orion-API のバージョンは v2.0 の NGSIv2 を利用を推奨しています。

【手順】

1. 「2.1.1 アプリケーションの登録」の手順 1~2 を行います。

AM

2. 画面上から Subscribe する API のアイコンをクリックします。

AM

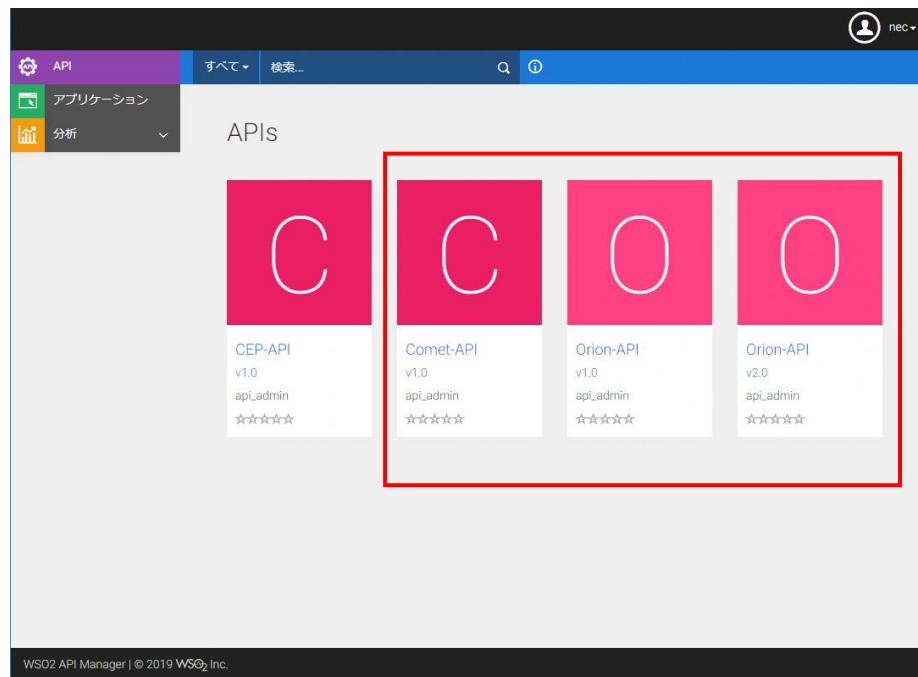


図 2-7 Subscribe する API のアイコンのクリック

3. 「アプリケーション」のプルダウンメニューから「2.1.1 アプリケーションの登録」で登録したアプリケーションを選択し、「サブスクリプション」をクリックします。

AM

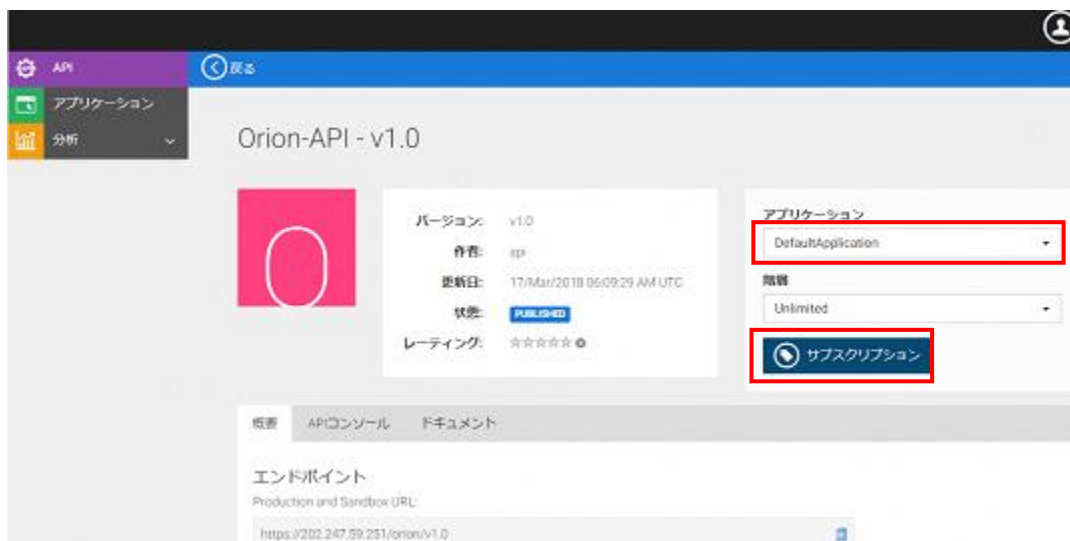


図 2-8 アプリケーションの選択

4. ダイアログが表示されるので、[サブスクリプション表示]をクリックする。



図 2-9 サブスクリプション表示のクリック

5. 「サブスクリプション」画面の下部に Subscribe した API のアイコンがあることを確認します。

AM

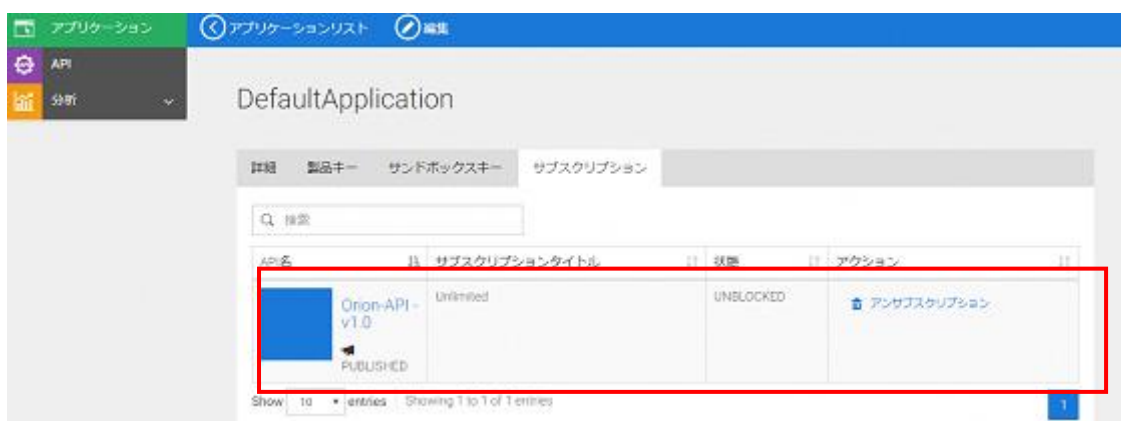


図 2-10 Subscribe した API のアイコンの確認

- 他に Subscribe する API がない場合は、画面右上のアイコンから[サインアウト]をクリックして完了します。

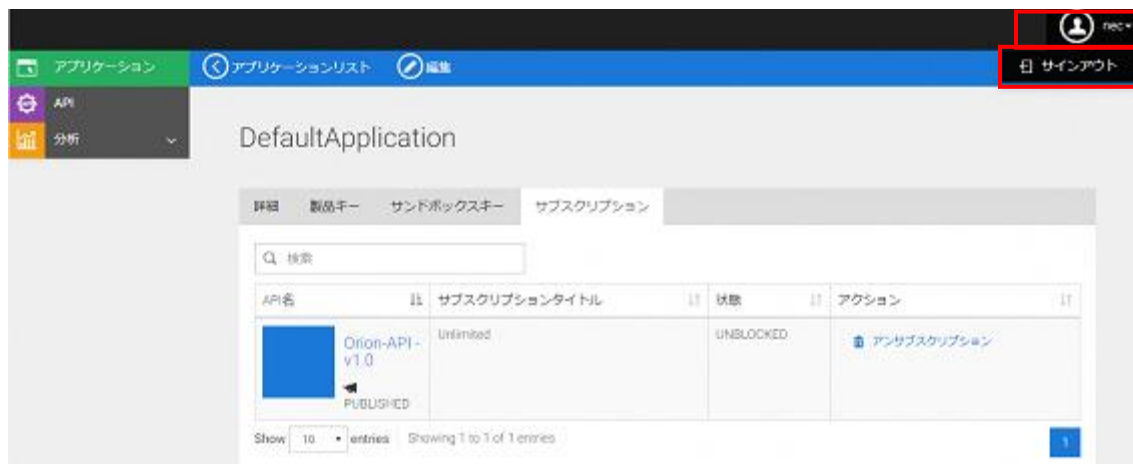


図 2-11 サインアウト

2.1.3 アプリケーションアクセス用キー／秘密鍵の生成

登録したアプリケーションへのアクセスに必要な利用者キーと利用者秘密鍵を生成します。

【手順】

1. 「2.1.1 アプリケーションの登録」の手順 1～2 を行います。 **AM**

2. メニューから[アプリケーション]をクリックします。 **AM**

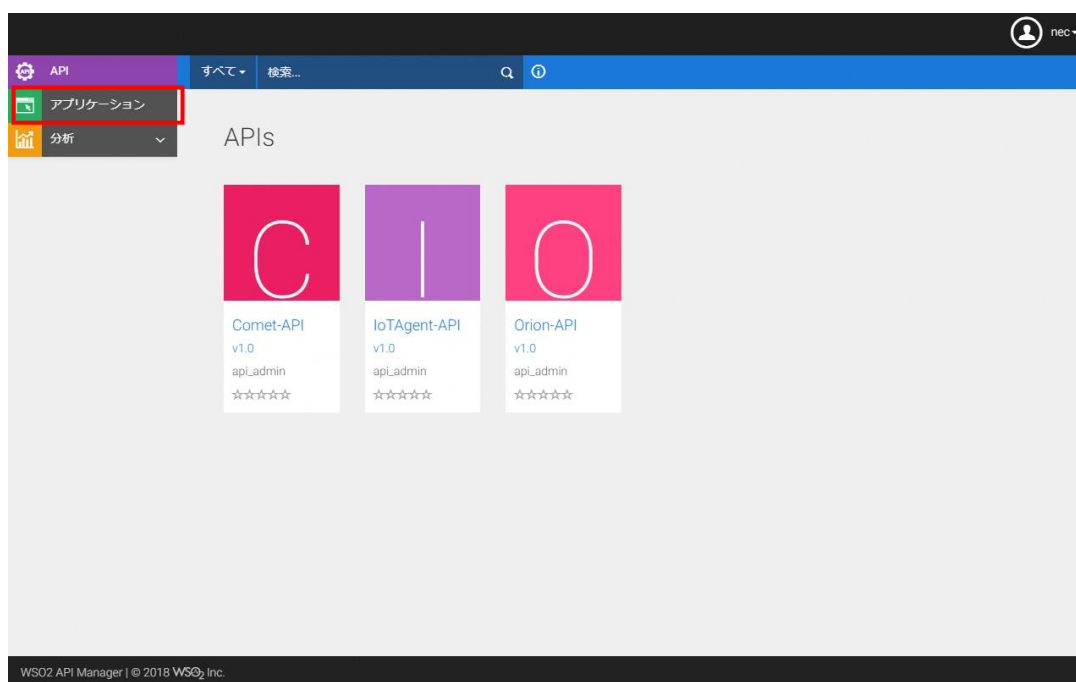


図 2-12 アプリケーションの選択

3. アプリケーション一覧から、登録したアプリケーションを選択します。 **AM**



図 2-13 アプリケーションの選択

4. 「製品キー」タブをクリックする
5. 補助タイプの「SAML2」「IWA-NTLM」のチェックを外し、表 2-3 からアプリケーションに必要な補助タイプのチェックを選択します。

次に、トークンの有効期限を指定し、[キー生成]をクリックすると「利用者キー」、「利用者秘密鍵」、「アクセストークン」が生成されます。

重要

「Client Credential」の補助タイプを外した状態で[キー生成]をクリックした場合は、エラー画面が表示され「アクセストークン」が生成されません。この場合、「利用者キー」「利用者秘密鍵」は生成されていますので、ブラウザ画面を更新して「利用者キー」「利用者秘密鍵」を確認してください。

※ トークンの有効期限（秒）に、-1 を指定すると無期限のトークンが生成されます。



図 2-14 利用者キー/利用者秘密鍵の生成

表 2-3 補助タイプ詳細

補助タイプ名	対応する OAuth2.0 認証タイプ *1	備考
Code	Authorization Code Grant	コールバック URL 必須
Implicit	Implicit Grant	コールバック URL 必須
Password	Resource Owner Credentials Grant	-
Client Credential	Client Credentials Grant	-
Refresh Token	Refresh Token Grant	-

*1 OAuth2.0 認証タイプについては、「表 2-4 OAuth 2.0 認証の種類」を参照。

表 2-4 OAuth 2.0 認証の種類

認証方法	説明、詳細 URL
Authorization Code Grant	<p>信頼関係にない Web アプリケーションの認可に有効。</p> <p>Client(Web アプリケーション)のアクセス要求に対し、利用者が認可サーバーの認証を受けて認可コードを取得する。Client がその認可コードを用いて、認可サーバーからアクセストークンを取得する方式。</p> <p>※認可サーバーによってログイン画面が表示される。</p> <p>利用者キー、利用者秘密鍵を使用する。</p> <p>https://docs.wso2.com/display/IS530/Authorization+Code+Grant</p>
Implicit Grant	<p>JavaScript など、パブリックプログラムの認可に有効。</p> <p>Client(アプリケーション)のアクセス要求に対し、利用者が認可サーバーの認証を受けて、アクセストークンを取得する方式。</p> <p>※認可サーバーによってログイン画面が表示される。</p> <p>※利用者の Web ブラウザへ通知されるリダイレクト URI にアクセストークンが含まれるため、セキュリティ強度が低い。</p> <p>利用者キーのみを使用する。Refresh Token でのトークン更新は無い。</p> <p>https://docs.wso2.com/display/IS530/Implicit+Grant</p>
Resource Owner Credentials Grant	<p>信頼関係(同ドメイン内など)のある Web アプリケーションの認可に有効。</p> <p>Client(アプリケーション)に対し利用者が認証情報を提供し、Client が認可サーバーの認証を受けてアクセストークンを取得する方式。</p> <p>※アプリケーションがログイン画面を表示する。</p> <p>利用者キー、利用者秘密鍵、ユーザーID、パスワードを使用する。</p> <p>https://docs.wso2.com/display/IS530/Resource+Owner+Password+Credentials+Grant</p>
Client Credentials Grant	<p>プログラム(バイナリ)の認可に有効。</p> <p>Client(アプリケーション)自身が認証情報を保持し認可サーバーの認証を受ける方式。利用者は認証情報(ユーザーID やパスワード)を提供しない。</p> <p>利用者キー、利用者秘密鍵を使用する。Refresh Token でのトークン更新は無い。</p> <p>https://docs.wso2.com/display/IS530/Client+Credentials+Grant</p>
Refresh Token Grant	<p>アクセストークンが期限切れ、又はアクセストークンの更新が必要な場合に、</p> <p>Refresh Token を用いてアクセストークンを取得する方式。</p>

	利用者は再度、認証情報(ユーザーID やパスワード)を提供する必要がない。 アクセストークン取得時と共に取得した Refresh Token を使用する。
	https://docs.wso2.com/display/IS530/Refresh+Token+Grant

6. 右にあるアイコンをそれぞれクリックし、「利用者キー」、「利用者秘密鍵」の文字列をクリップボードにコピーします。

重要

本手順で生成した「利用者キー」、「利用者秘密鍵」をアプリケーション開発者に提供してください。アプリケーション開発者は、「利用者キー」、「利用者秘密鍵」を用いて API の呼び出しに必要なアクセストークンを取得します。



図 2-15 利用者キー/利用者秘密鍵の確認

お使いのブラウザによってはコピーされない場合があります。その場合には「キー表示」をクリックして利用者キーなどの内容が表示させ、表示されたものをマウスなどで選択してコピーしてください。

7. 生成後は画面右上のアイコンから[サインアウト]をクリックして完了します。

AM



図 2-16 サインアウト

2.1.4 アプリケーションの補助タイプ変更

アプリケーションの補助タイプは、「2.1.3 アプリケーションアクセス用キー／秘密鍵の生成」でトークンを生成した後でも変更可能です。

例として、「2.1.2 アプリケーションの API 設定 (Subscribe)」で登録したアプリケーションの補助タイプを変更する手順を記載します。

【手順】

1. 「2.1.3 アプリケーションアクセス用キー／秘密鍵の生成」の手順 1～4 を行います。 AM
2. 表 2-3 の補助タイプから変更する補助タイプのチェックを選択し、[更新]をクリックします。

AM

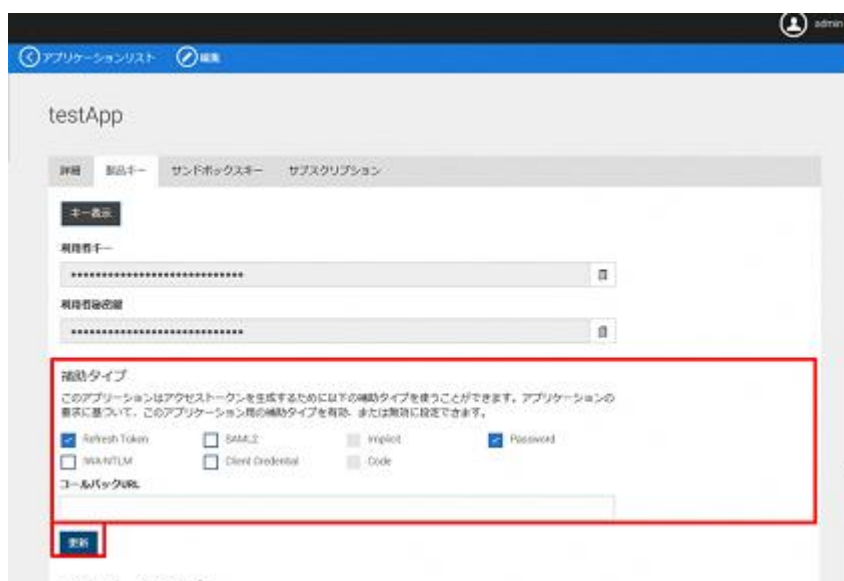


図 2-17 補助タイプの変更/更新

3. ブラウザ画面を更新し、補助タイプのチェックボックスが更新されていることを確認します。

AM

4. 更新後は画面右上のアイコンから[サインアウト]をクリックして完了します。

AM



図 2-18 サインアウト

重要

実際の認証において、補助タイプが反映されるまで 15 分程度必要です。補助タイプの更新後、アクセストークンの取得は 15 分間の時間を置いてから実施してください。

2.1.5 アプリケーションの削除

アプリケーションを削除する方法を以下に記載します。

【手順】

1. 「2.1.1 アプリケーションの登録」の手順 1~2 を行います。

AM

2. メニューから「アプリケーション」を選択します。

AM

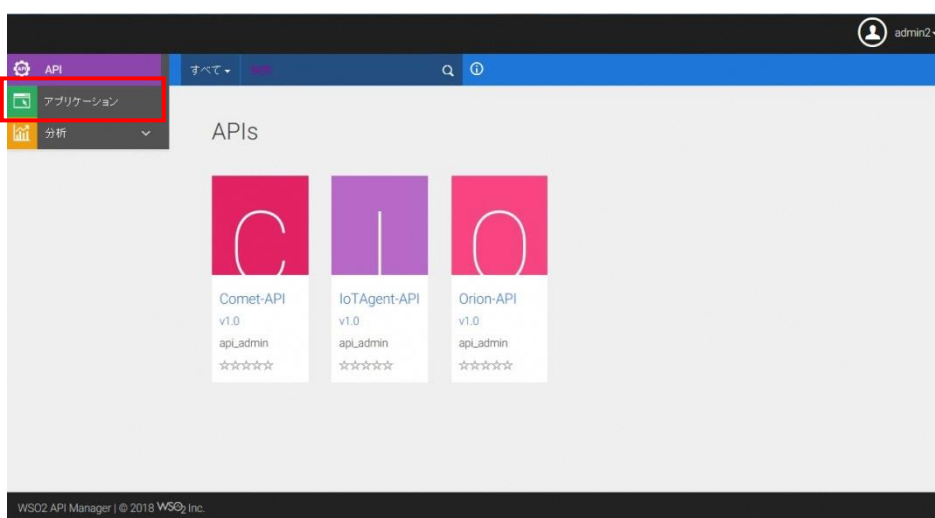


図 2-19 [アプリケーション]の選択

3. 削除するアプリケーションの行で[削除]をクリックし、ダイアログで[はい]をクリックします。

AM

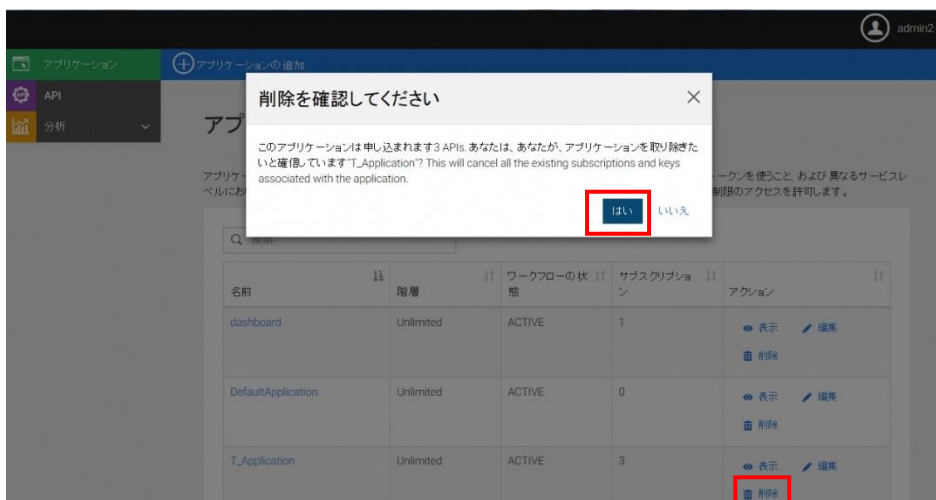


図 2-20 アプリケーションの削除

2.2 ユーザー情報の編集

Identity Server のダッシュボード（以降、ダッシュボード）では、利用者が自分でプロフィール／パスワードを変更することが可能です。

本章では、ダッシュボードからプロフィール／パスワードを変更する手順について記載します。

2.2.1 サインイン

ダッシュボードへのサインイン方法を以下に記載します。



サインインに 10 回失敗した場合、30 分間アカウントがロックされます。

【手順】

1. ブラウザから、下記 URL にアクセスします。

`https://[ドメイン名]/wso2is/dashboard/`

2. 「ユーザー名」と「パスワード」を入力して[サインイン]をクリックします。

※ユーザー名及びパスワードは管理者から別途入手してください



3. 以下のような画面が表示されますが、画面が切り替わるまで待機してください。

You are now redirected back to <https://t1030900-pf.dev-necjfware.jp:443/wso2is/dashboard/acs> If the redirection fails, please click the post button.

POST

4. 以下の画面が表示されたらログイン完了です。



2.2.2 プロフィール変更

ダッシュボードでのプロフィール変更方法を以下に記載します。

【手順】

1. 下記の画面で、「マイプロフィール」の「詳細」ボタンをクリックします。



2. 入力欄を編集し「更新」ボタンをクリックします。*がついている項目は、必須の入力項目です。

A screenshot of the 'マイプロフィール' (My Profile) edit form. At the top right, there is a user email 'nec@carbon.super'. The form title is 'マイプロフィール'. Below the title, there is a section titled 'プロフィール更新' (Update Profile). It contains several input fields: '姓*' (Last Name) with the value 'nec', '名*' (First Name), '会社' (Company), '組織' (Organization), 'メールアドレス*' (Email Address), and '電話番号' (Phone Number). At the bottom of the form, there are two buttons: '更新' (Update) and 'キャンセル' (Cancel). The '更新' button is highlighted with a red border.

2.2.3 パスワード変更

ダッシュボードでのパスワード変更方法を以下に記載します。

【手順】

1. 「パスワード変更」の「詳細」ボタンをクリックします。



2. 「現在のパスワード」「新しいパスワード」「新しいパスワードの再入力」をそれぞれ入力し、「更新」ボタンをクリックします。



The screenshot shows the 'パスワード変更' (Change Password) form. It includes three input fields: '現在のパスワード' (Current Password), '新しいパスワード' (New Password), and '新しいパスワードの再入力' (Re-enter New Password). Each input field is highlighted with a red box. Below the input fields are two buttons: '更新' (Update) and 'キャンセル' (Cancel), with the '更新' button highlighted by a red box.

2.2.4 サインアウト

ダッシュボードからのサインアウト方法を以下に記載します。

【手順】

1. 右上の「(ユーザー名)」をクリックします。



2. 表示されたメニューの「サインアウト」をクリックします。



 商標について

- その他、本マニュアルに掲載された各社名、各製品名、各ロゴは、各社の商標又は登録商標です。

IoT 共通プラットフォーム実証環境
サービス利用ガイド

(禁無断複製)